

Ph.D.取得報告書

2020年9月

2020年5月に無事に Ph.D. Defense を終え、8月末に Ph.D.を交付されました。現在は、京都の民間企業で働いております。毎日、京都大学の船井哲郎記念講堂の前を通り、通勤をしており、不思議な縁を感じております。遅くなり恐縮ですが、Ph.D.取得を報告させていただきます。

Ph.D.論文のタイトルは“Spectroscopy of Two-Dimensional Excitons in High Magnetic Fields to 30 Tesla”です。高磁場分光装置の実験系から論じて、高磁場中の有機無機ハイブリッドペロブスカイト半導体の物性に関する仕事を主として纏めました。この物質は分子的に量子井戸（二次元）構造を持ち、非常に面白い性質を有しています。現在光デバイスとしてよく普及している III-V や II-VI 族の半導体とは違った性質を持ち、研究している中で、様々な苦慮がありましたが、なんとか面白い性質を見つけ、Ph.D.論文に纏めました。先に取得した M.S. (Master of Science) はカーボンナノチューブに関する研究で、カーボンナノチューブも分子的に量子細線（一次元）構造を有しています。MS・Ph.D.の研究材料共に、究極的な量子構造を持つ物質で、そういった意味でも纏まった仕事となり、個人的にも満足しております。

卒業後は京都の分析・計測・医療機器の企業に就職しました。日米の様々な企業からオファーを頂き、私の専門分野の電気工学・光学・物性物理が最も活かせる現在の企業を選びました。給与面ではやはり米国の企業がよく、特に、Ph.D.卒の給与差はより顕著です。そのことが大きく影響し多くの Ph.D.取得者が米国に残るようですが、日本には多くの老舗企業があり、確かな技術力と長く業界を牽引できる柔軟な経営姿勢があり、私にはそういったものが魅力的で私の幅広い専門分野と経験を活かせると感じています。

就職して一か月が経ち、業務に慣れ、積極的に提案をしており、新人の意見も有用であれば、すぐに取り入れて頂けるので、充実した日々を過ごしております。また、残業もほぼないので、非常に Work Life Balance がよく、休日は京都の美しい景色を楽しんでおります。米国の企業では、産休や育休制度があまり普及しておらず、あっても比較的短いのですが、そういった制度も充実しており、よい企業であると感じております。

最後になりましたが、Ph.D.取得にあたり、船井情報科学振興財団の多大なるご支援を頂いたこと、感謝をしております。日本・米国で学んだことを生かして、分析・計測・医療機器企業の技術者・研究者として、日本の科学技術に貢献をして参ります。